

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度 嵐山町総合戦略検証委員会					
開 催 日 時	令和4年11月22日（火）		開 会	14時00分		
			閉 会	16時00分		
開 催 場 所	嵐山町役場 204・205 会議室					
会 議 次 第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 あいさつ 4 委員紹介 5 議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 会議録の署名人の任命について (3) 嵐山町総合戦略の検証について (4) その他 6 閉 会					
公開・非公開の別	公開		傍聴者数	0人		
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	会 長	権田 活一	出	委 員	木村 貴夫	出
	副会長	高坂 英夫	出	委 員	山口 聡	出
	委 員	杉田 哲	出	委 員	奥田 貴哉	出
	委 員	馬橋 昌利	出	委 員	青木 美恵子	出
	委 員	持田 知子	出	委 員	中江 彩佳	出
	委 員	谷口 直樹	出	委 員	平野 早恵	出
	委 員	大井 達雄	出	委 員	関根 盛敏	出
	委 員	田中 恵子	出	委 員	青木 裕子	欠
	委 員	船戸 美津子	出	委 員	武城 文明	欠
	委 員	佐野島 敬史	出			
事 務 局	地域支援課長 馬橋 透			地域支援課主任 田邊 幸靖		
	地域支援課主席主査 加藤 憲史					

次 第	顛 末 (要点筆記)
1 開 会	馬橋地域支援課長
2 委嘱状交付	杉田委員 代表受領
3 あいさつ	<p>(佐久間町長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この総合戦略は町の人口減少対策の重要な計画であり、ブレることがあってはいけない。新規の委員には新たな視点で、継続の委員にはこれまでの経験を生かした意見をいただきたい。</li> </ul>
4 委員紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員より自己紹介を行った。</li> </ul>
5 議 題	<p>(1) 会長及び副会長の選任について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会長が決定するまでの間、佐久間町長が議事の進行を行う。</li> <li>・会長の互選を諮るが、推薦なし。</li> <li>・事務局より、以前の委員会では区長会長が会長、商工会長が副会長となっていたと説明。</li> <li>・区長会長が会長、商工会長が副会長を務めることでよいか諮る。(異議無く了承される)</li> <li>・権田区長会長が会長に選任される。</li> <li>・高坂商工会長が副会長に選任される。</li> <li>・権田会長、高坂副会長より挨拶をいただいた。</li> <li>・権田会長が議長となり、議事の進行を行う。</li> </ul> <p>(2) 会議録の署名人の任命について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、名簿順でお願いしたいとの説明を行う。杉田委員と馬橋委員を会議録署名人として決定した。</li> </ul> <p>(3) 嵐山町総合戦略の検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より、「嵐山町総合戦略」の概要と第1期計画の成果について次の説明を行った。戦略に位置付けられた取り組みを行い、人口の減少率を下げるのが本計画の目的である。第1期では「人口ビジョン」で定めた令和2年の目標値17,510人に対して17,889人と達成したが、合計特殊出生率はここ数年1を切っており、今後も総合戦略に位置付けられた取り組みの確実な実施が求められる。</li> </ul> <p>その後、「嵐山町総合戦略検証結果(案)」を基に項目ごとに説明を行った。</p> <p><b>【1. 雇用をつくる】</b></p>

(高坂副会長)

- ・小麦「農林 61」についてだが、取扱店からの需要量と生産量のバランスはいかがか。

(事務局)

- ・担当課に確認をしたところ、現在バランスはとれており、新たな取扱店の募集は行っていないとのこと。

(高坂副会長)

- ・今後、取扱店を増やしていく考えは。

(事務局)

- ・小麦の乾燥調製と保管については、農協にお願いして協力いただいている状況です。取扱店からの需要が高まれば、供給を増やすため、生産や管理体制について検討が必要になると考えます。

(杉田委員)

- ・鎌形地区のラベンダーの枯れが目立っている。土壌にあっていないのでは。国からの補助金がなくなると聞いているが、ラベンダー園は今後も継続するのか。鎌形地区の住民や議員からも心配する声があがっている。
- ・町のカラーは紫色であると考え。パープルガーデンではないが、4月から10月くらいまでの期間、ラベンダーの他に紫や青色の花で人が呼べるとよい。

(事務局)

- ・これまで国の補助金を使って事業を行っていましたが、今年度で終了します。町の方針として今後ラベンダー園をどのようにしていくのか、検討していく必要があります。

(権田会長)

- ・課題になっていることに運営費とあるが次年度以降はいかがか。

(事務局)

- ・ラベンダー園の管理やイベントの運営については、引き続き観光協会とともに検討していきます。

(馬橋委員)

- ・ラベンダー園の入場料は無料であったが、次年度も同様に無料か。

(事務局)

- ・令和3年度については、コロナの感染状況やラベンダーの生育状況などにより、無料とさせていただいていましたが、令和4年度については、入場料を徴収しています。

(権田会長)

- ・今年度のラベンダー及び園の運営の状況はいかがか。

(持田委員)

- ・ラベンダーにカバーをかけ雨よけをするなど対策した効果もあって

か、例年に比べ枯れが少ない状況である。刈り取ったラベンダーは、福島県の蒸留場に持ち込み、ラベンダーオイルの抽出を行った。

(田中委員)

- ・今年、ラベンダークラブに入会し、ラベンダーの管理を行っている。過去の経験を生かし工夫をしながら管理していることが分かった。他の会員も一生懸命やっている。このような状況を町民の方へ周知してほしい。

(事務局)

- ・ラベンダーについては色々と意見がありますが、総合戦略の基本目標に定めた「人の流れをつくる」という面では、一定の効果があったと考えます。ただ、事業の継続性についても見据えなくてはならないため、町として財源を含めて事業の在り方について、観光協会と検討していく必要があります。

(高坂委員)

- ・今年、ラベンダー園にポピーを植えていたが、多くの人が見に来ていた。ラベンダー園周辺では桜堤や嵐山溪谷の紅葉もあり、それぞれの時期に一定の集客がある。年間を通して花を楽しめるとよい。

(関根委員)

- ・学校の保護者からは、桜にしるラベンダーにしる花を楽しむ期間が短く、また、花だけでは子どもが飽きてしまうという意見がある。古里地区にある埼玉クエストなどの企業と提携し、子どもが楽しめる仕組みがあれば、子どもを連れていきやすい。子どもの遊び場も含め年間を通して楽しめる仕組みがあるとよい。

(関根委員)

- ・町の新規創業者数及び第二創業者数は2件のみか。

(事務局)

- ・2件は創業塾を経て創業した件数です。

(船戸委員)

- ・今年のラベンダーまつりで、スティックづくり体験教室のお手伝いをしたが、県外からも多くの方がいらっしやっていた。嵐山町は自然が豊かである。たくさんのお花で観光客をお迎えできるとよい。吉見町にある直売所併設の道の駅のように子どもの遊び場があるとよい。

(平野委員)

- ・ラベンダーと金泉寺のあじさいは、同時期に見頃を迎える。北部地域との連携ができるとよい。また、ラベンダー園の近くにあるデイセンターウィズが建て直しを検討している。建て直しをきっかけに町とつながっていききたいという声がある。今後の参考としてほしい。

(大井委員)

- ・コロナ禍で自然を活かした観光は注目されている。観光客がお金を落

とす仕組みづくりが重要である。

## 【2. 人の流れをつくる】

(高坂委員)

- ・杉山城跡や金泉寺など北部の観光資源との連携を図るような仕組みは検討しているか。

(事務局)

- ・交通手段の確保として、観光協会においてレンタサイクルを始めていただきました。

(杉田委員)

- ・情報発信は、町職員だけでなくインフルエンサーを活用したらどうか。秩父市はアニメの聖地化に成功した。また、ツイッターは毎日発信することで効果があると考えます。

(事務局)

- ・Jリーガーである小池選手に観光大使となっただき、嵐山町を発信いただくことで、フォロワー数の増加につながりました。

(関根委員)

- ・ツイッターの投稿は職員だけではなく、職員以外の人にもお願いしてもよいのでは。自然をうりにするというのであれば、日常の様子や自然の変化を投稿することで町の魅力が伝えられる。

(杉田委員)

- ・町で特定のハッシュタグを決め、職員以外の人にそのハッシュタグで投稿してもらうことで、より多くの方の目につくようになる。

(田中委員)

- ・町民参加型の取り組みは、町民のまちづくりに対する意識が高まり、魅力ある地域づくりにつながる。また、アクティビティを充実させることにより、子ども連れの集客につながる。

(馬橋委員)

- ・古里地内にある埼玉クエストのオーナーは、オリンピックの中国代表監督になった人であり、中国でかなり影響力がある。埼玉クエストには芸能人やオリンピック選手も来ており、集客効果も宣伝効果も期待できる。海外の方も多く来ている。周辺に飲食店や宿泊施設がなく嵐山町にお金が落ちていないのがもったいない。

(関根委員)

- ・空き家の活用した宿泊も検討してはいかがか。

(持田委員)

- ・日本テレビの昼番組で嵐山町だけで30分特集をしていただいた。体験できる施設として埼玉クエストを紹介した。嵐山町には体験型の観光地や飲食店がなく、そこが嵐山町の弱い点であると考えます。

(谷口委員)

- ・北部地域との連携としてレンタサイクルを行っているとのことであるが、乗り捨てられるポイントがあるとよい。そのポイントが拠点となり新たな人の流れができる。

(事務局)

- ・宿泊施設や飲食店のあるなしは、需要と供給の関係によるところが大きいと思います。行政としては規制の緩和など必要に応じ検討していきます。また、既存の観光資源の中で潜在的に人が来ているが表れていない資源についても、積極的な情報発信が必要です。インフルエンサーを活用した情報発信もターゲットを絞った情報発信ができることから重要と考えます。

### 【3. 安心して結婚・出産・子育てができる社会をつくる】

(田中委員)

- ・来年度より嵐山幼稚園において3年保育がスタートする。県内では公立幼稚園をなくしていこうという動きもある中で、3年保育が実現されたのは、ありがたいことである。また、小中学校で同じ学校給食というのは県内でもなかなかないことであり、心も身体も健康な子供たちを育てる素晴らしい取り組みである。

(佐野島委員)

- ・住民の方に嵐山町で子育てをしたいと思ってもらえることが大切であり、現在の医療費助成や多世代への支援を続けてほしい。

(木村委員)

- ・吉見町の道の駅には子ども連れがよく来ている。近隣市町村の事例を参考に、地区や子育て世帯からの声を施策に取り入れていただきたい。

(中江委員)

- ・地区を通るバスの本数が少なく、子どもが高校に通うようになった時などを考えると交通に不安がある。

(奥田委員)

- ・観光客を呼ぶことも大事であるが、嵐山町に住む方がちょこっと子どもを連れて遊べる公園があるとよい。

(事務局)

- ・大型遊具の設置は住民の方からも求められています。本日も公園やイベント会場に子どもたちが遊べる遊具が必要であるとの意見をいただきました。財政上、すべての公園に一定のクオリティを保った遊具を設置することは難しいです。ただ、ある程度規模の大きい公園に大型遊具を設置することにより、子育て世帯が集まり情報交換が可能になるなどの効果も期待できます。大型遊具の設置などについて担当課

と情報共有します。

#### 【4. 住みよい環境をつくる】

(奥田委員)

- ・安心・安全なまちづくりにおいて、情報発信は重要である。特に高齢者にどのように伝えるかである。複数のツールでの発信を検討してほしい。

(事務局)

- ・本年9月より新たにLINEの運用を開始しました。

(高坂委員)

- ・あんしんメールを通じて情報を取得している。防災の面からもスピーディな発信をお願いしたい。

(青木委員)

- ・駅西口には駐輪場がない。現在、駅西口の整備を行っているが、駐輪場を整備する予定はあるのか。また、駅西口完成図はどこで確認できるのか。

(事務局)

- ・駐輪場を整備する予定です。完成図については町ホームページにイメージの絵が上がっていますので、ご覧ください。駅については、周辺の活性化ついて指標にしており、駅を拠点に据えていくことは町の方向性でもあります。

(杉田委員)

- ・町では学校再編の検討をしているが、小中学校は同じ場所で1か所お予定しているのか。通学が再編時の課題となっているのか。

(事務局)

- ・小中学校再編等審議会の答申では「小学校3校を1つ、中学校2校を1つ、場所は現在の菅谷小学校及び中学校の場所とする」となっており、その答申をもとに検討していくこととなります。
- ・通学についてですが、校舎をどこに設置するにしても法的に規定されている通学距離以上となる児童生徒がいるため、スクールバスの運用は必須となります。学校の再編や駅前の整備など町の公共交通と絡めて検討していく必要があります。また、通学の安心・安全については、スクールバスの運用や各地域で行っていただいている見守り活動などとリンクしながら立案をしていく必要があります。

(4) その他

(事務局)

- ・国の総合戦略が改訂され、名称も「デジタル田園都市国家構想総合戦略(仮称)」に変更となる予定です。町の総合戦略は、国の計画を参

	<p>酌して策定しているため、今後改訂していく予定です。改訂の内容としては、人口減少が起因となる地域課題について、デジタルを活用して解決というものであり、計画の基本的な考え方は変わりありません。今後、国の動向を含め情報発信を行っていきます。町の計画改訂についてもご意見いただきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。</p>
6 閉会	高坂副会長
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和5年1月5日 署名委員 <u>杉田 哲</u></p> <p>令和5年1月5日 署名委員 <u>馬橋 昌利</u></p>	